

中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が 効果的か その3

— 実用英語技能検定試験と TOEIC、その他資格試験との比較、
今後における課題 —

山西 敏博*¹

Research on Effective English Examinations for Junior and Senior High School
Students

YAMANISHI Toshihiro

This study researches what kind of English examinations are suitable for junior and senior high school students. The STEP Tests have been said to be essential for them, whereas TOEIC, TOEIC Bridge and other tests have been popular generally. This research shows how effective these tests are for English learners at schools.

KEYWORDS : English examination, STEP Test, TOEIC

1. 研究の目的

実用英語技能検定試験（英検）はその設立以来 40 数年に渡り学校現場に定着し、数々の級を設立して、中高校生は言うに及ばず、小学生や大学生、一般社会人にも英語学力の伸長度を測る指針として、これまでに数多くの受験生を抱えてきた我が国では最大級の英語検定試験である。一方、それに対して、近年企業からの要請として「使える英語」、すなわちコミュニケーション能力を重視した新たな英語検定試験の柱として TOEIC (Test Of English for International Communication) および TOEIC Bridge が脚光を浴び、その受験熱は 高まりを見せる傾向にある。

そのような中で、本論では以下の 5 点に対して分析を行い、提言をしていくことを目的とする。

1. 英検の中学・高校教育現場で活用の仕方
2. 中学・高校教育現場の教員が欲している資料
3. 保護者に対して有益性を訴える資料
4. 中等教育現場の教員および保護者以外の対象者に対する意見・提言
5. 総括：これまでの分析結果における課題と提言

2. 英検の中学・高校教育現場で活用の 仕方

山西 (2012) ¹⁾ の「中学・高等学校現場にはどの

*1 一般科(Dept. of General Education), E-mail: yama0225@oyama-ct.ac.jp

ような英語資格試験が効果的か その1」および山西 (2013) ②の「中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が効果的か その2」に記してきた内容を元に、「英検がいかに中等教育学校現場での英語教育方法に準じているか、加えて高等学校および高等専門学校、さらには大学・短期大学への入学試験への準備として、出題形式の類似性や双方の獲得得点の相関性を総合的に見ながら、いかにその役割を大きく果たしているか」といった点を中心に訴えていくことで、英検を受験することにより英語学力が伸長していくという効果は生まれるものと推察する。

一方、2001年度に発表された「行政委託型公益法人」の改革による「国が認定している技能審査事業の認定制度」の廃止により、「社会教育上奨励すべきもの」として認定してきた技能検定制度を民間に委ねるといった、いわゆる「文部科学省認定」といった文言が外れたのも、学校現場にはかなり大きな衝撃を生んだ（日本英語検定協会,2003）③。

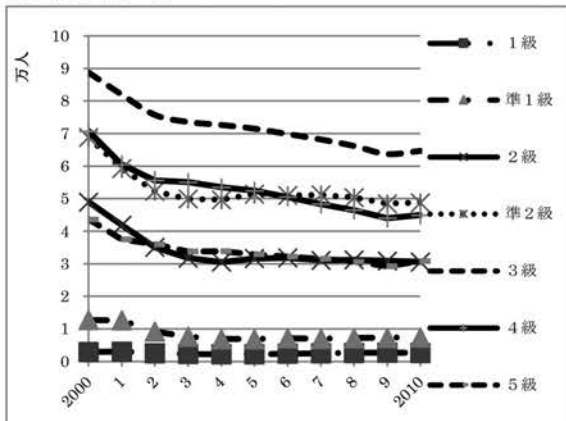


図1 英検受験者数 (2000-2010) : 級別
(日本英語検定協会,2011) ④

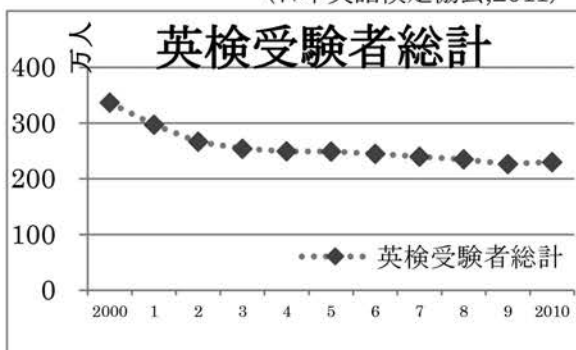


図2 英検受験者数 (2000-2010) : 総計
(日本英語検定協会,2011) ⑤

図1,2のように、やはり2000年度以降その数は大きく下降していていることがわかる。少子化の影響も否めないが、そういった「文部科学省認定」が外れた影響は尾を引いているものと思われる。

他方、TOEICの受験者の推移は図3のようにになっている。

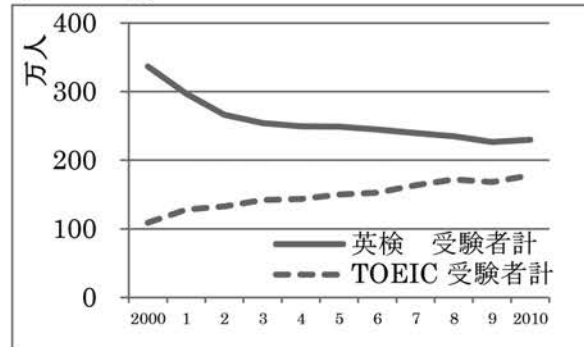


図3 英検・TOEIC 受験者数 総計比較 (2000-2010)

(日本英語検定協会,2011) ⑥

(国際ビジネスコミュニケーション協会,2011) ⑦

しかしながら、元来 TOEFL も TOEIC も「文部科学省」の認定は受けてはいなかった。さらに企業が求める TOEIC スコアの数値などというものも前掲の図2のように受験者数の推移が示されているが、大学生や高専生の TOEIC 受験が必須となり、図3のように受験者数を伸ばしていったものと思われる。

だが、全国的にも英検の試験に関する知名度は揺らいではおらず、むしろ高校生に際しては、「中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が効果的か その2」(山西,2013) ②に記載した研究結果である「英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究」(山西,2000) ⑧の中で明らかにした、「ある一定の英検級(準2級・2級)を取得した中学生および高校生は、同様にセンター試験英語科目でも高得点を取ることができる」という事を生徒に訴えて、準2級取得者は、平均およそ140点、2級取得者のセンター試験英語科目平均点はおおよそ160点が取れるということを訴えながら指導に勤しんでいけば、英検が中等教育現場で果たす役割は大きくなるものと言える。

したがって、「文部科学省認定」などという文言と「英検」の試験の地位や認知度とは全く関係がなく、むしろこれまでどおりに高校や大学

への合格基準の一つとして英検のある一定の級を取得している者には、表1にあるように、全国の大学や短期大学、および高等学校や高等専門学校で、延べ1,228校（複数の学部による優遇を有する学校も含む）が合格の優遇が受けられるという事実がある。

表1 英検資格取得者 優遇校（東京都・大学）一部抜粋

大学名	学部	入試区分	級
一橋大学	商	AO・推薦	準2級以上
上智大学	外国語・文・法・経済	AO・推薦	準1級以上
首都大学 東京	都市教養（法学系）	推薦	2級以上
中央大学	法・商・経済	推薦	2級以上
専修大学	商	推薦	3級以上

（日本英語検定協会，2011）⁹⁾

このように、これまでの資格取得といった努力が、入学試験時の優遇措置として功を奏するのであれば、努力に対する目標の設定にもつながっていくものと考ええる。

他方、TOEICでも表2のように、同様の優遇校は存在する。

表2 TOEIC 取得者 優遇校（東京都・大学）一部抜粋

大学名	学部	入試区分	TOEIC 点数
学習院 大学	法	推薦	730 以上
上智大学	外国語（英語）	公募推薦	700 以上
首都大学 東京	都市教養（法学系）	出願要件の一部	520 以上
中央大学	法	出願要件の一部	680 以上
専修大学	経営	推薦	500 以上

（国際ビジネスコミュニケーション協会，2011）⁹⁾

しかしながら、Bridgeの優遇データは存在していないものの、TOEICでは全国の高等学校

および高等専門学校、さらには大学・短期大学で、延べ314校（複数の学部による優遇を有する大学も含む）が合格の優遇をしているという実態は報告されている（国際ビジネスコミュニケーション協会，2011）⁹⁾。しかしながらこの数は前者の1,228校と比較するとわずか26%にしか満たない。すなわち、高校や大学の合格基準の優遇条件として満たすには、これらの試験はまだまだハードルが高く、逆に言えば、高校生までの学生がある一定の点数を取得するというレベルまでは満たしてはいないという事が言える。

一方で、センター試験には既に導入がされているが、前述したように英検の1次試験にも若干TOEIC的なビジュアル方式の長文読解を導入するといった検討も、「国際コミュニケーション能力の伸長度測定」にも貢献しているといった姿勢を示すために必要であり、加えてWritten Test に対しての新たな対応策も大学入試問題自体も変革を遂げてきつつあるために、早いうちに講じつつ、その打開策を含めてPRをしていく事も必要であろうかと思われる。

3. 中学・高校教育現場の教員が必要と

している資料

学校現場の教員が「英検」に対してもっとも大きな混乱をきたした事は、次の点であった。

「英検」から「文部科学省認定」が外れたこと

これをより率直に言えば、

これまでにせっかく「英検」を取っていても、「文部科学省認定」が外れた現在では、その価値がなくなってしまうのではないか。また、今後取得したとしても、どこからも評価されないのではないか

と、いうことになるであろう。

これについての打開策としては、前述したように「文部科学省認定」という言葉と「英検」のの地位や認知度とは全く関係がなく、むしろこれまでどおりの優遇を受けているということを強調していくことが急務であろう。少子化の影響

や TOEIC Bridge への移行以前に、上記のような風評の払拭こそが英検の受験者を増加させる最大の糸口になるであろう。

ただし、これも前述したように 1 次試験にも若干 TOEIC 的なビジュアル方式の長文読解を導入するといった検討(「国際コミュニケーション能力の伸長度測定」にも貢献しているといった姿勢を示すため)や、加えて Written Test に対しての新たな対応策(大学入試問題自体も変革を遂げてきつつあるため)なども早いうちに講じつつ、その打開策を含めて PR をしていく事も同時に必要であろうかと思われる。

一方、教員が「英検」について欲している資料は次の点である。

「英検」を取得しても、それがセンター試験の点数とどのようにつながるのでしょうか

これまでもまことしやかに「英検とセンター試験の点数には相関があるようである」と言われてきてはいたが、それを実証するデータが筆者の知る限りでは見当たらなかった。出題形式は一見して双方の問題を見比べてみると類似性はあるようにも思われるので、そこから「問題の出され方がある程度似ているのだから、点数だっておそらく同じように取れるだろう」といった漠然とした期待感しか持たれてはいなかった。そこで着目したのが前述している「英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究(山西,2000:日本英語検定協会)」⁷であった。そしてそこで曖昧であった長年の問題点を実証するに至ったのであるが、問題は果たしてこういった論文が数多く掲載されている英検「STEP Bulletin」が現場の先生方にどのくらい読まれているかといった点である。これまでも著者が所属をしていた高等学校には最低 1 冊は送付されてきていたが、現場の教員は公務に追われ、また、研究についてもさほど目を通す時間や、場合によっては読む意欲もさほどなく、加えて現場の授業 実践からの視点では理解をするのにかなり難解な研究論文が数多く掲載されていたかと思われる。「英検協会が助成金を出してくれる研究」なのだから「英検」に還元する論文がふさわしいのではないかと記された論文ですら、国立・私立難関大学や医学部に進学する生徒が数多く在籍する著者が勤務していた学校の教員が

目を通していた姿というのは皆無に等しい状況であった。ましてや全国的に鑑みても執筆者本人か英検協会の担当者が宣伝がてらこの論文集を PR していなければ、その読者というのはごくわずかであったであろうと推察される。以上の点から、教員の「英検取得級と大学入試センター試験英語科目獲得得点との相関関係の是非」といった疑問に対して明確に答えを出すべく記された論文であるからには、その結果を数多くの高校現場の教員に知らしめて普及して頂きたいと願う。そうすれば、単純に考えても「英検を高校在学時代に最低でも準 2 級、できれば 2 級を取得すれば、センター試験でもこのデータに準じる点数を取る事ができるのだ。だから、君達も今のうちに英語を頑張って勉強して英検(準)2 級を取ろう。」といった、身近な目標設定をなすことができ、それがゆくゆくは英検の受験を学校現場に普及させる大きな糸口になるのではないかと考える。

実例として、筆者自身、2002 年度に勤務校における授業中で指導を行った際に、この事例を提示して生徒への英検取得を奨励した。結果は表 3,4 のとおりである。

表 3 英検取得者数 (2003)

英検 2 級取得者 155 名

高校 3 年生: 55 名 (114 名中) ・ 高校 2 年生: 55 名 (120 名中)
 高校 1 年生: 28 名 ・ 中学 3 年生: 13 名
 中学 2 年生: 4 名 (高校 1 年生以上の取得率 40%)

準 1 級取得者 7 名

高校 3 年生: 3 名 (114 名中) ・ 高校 2 年生: 3 名 (120 名中)
 中学 3 年生: 1 名

準 2 級取得者 418 名

高校 3 年生: 104 名 (114 名中) ・ 高校 2 年生: 104 名 (120 名中)
 高校 1 年生: 107 名 ・ 中学 3 年生: 70 名
 中学 2 年生: 33 名 中学 1 年生: 4 名
 (中学 3 年生以上の取得率 82%)

(北嶺中高等学校,2003)¹⁰

表 4 センター試験英語獲得得点者数と進学先

準 1 級取得者 192.5 点以上 (論文データ: 180 点以上取得可能)

国立大学医学部 2 名

米国大学国際関係学部 1 名 (TOEFL・PBT 580 点台獲得)

2級取得者 160.1点	(論文データ:160点前後取得可能)
東京・京都大学	3名
北海道大学	6名
国立大学医学部	4名
その他難関国立大学	7名
早稲田大学・慶應義塾大学・ICU 他難関私大・医大	21名

(北嶺中高等学校,2003) 10)

上記の結果で理解できるように、最終的に全校生徒が1学年120名6学年という少人数制の私立中高一貫校の中で、155名もの英検2級取得者を輩出した。内訳は、高校3年生で114名中55名、加えて高校2年生でも120名中55名、高校1年生では28名、中学3年生13名、中学2年生4名であった(高校1年生以上の取得率40%)。準1級に至っては高校3年生で3名(うち2名は高校2年段階で取得)、高校2年生で3名、中学3年生で1名の計7名を輩出した。それまでには最高でも準1級取得者は2名であったにもかかわらず、この年度だけは格段の伸びを示した。この3名の高3生達は、2002年度のセンター英語試験ではほぼデータどおりに190点以上を取得し(論文データでは180点以上は取得可能)、2名が国立大学医学部、1名はTOEFLも580点台を獲得して米国大学国際関係学部それぞれ進学していった。準2級取得者は高校3年生で104名、高校2年生でも104名、高校1年生で107名、中学3年生70名、中学2年生33名、中学1年生4名の計418名であった(中学3年生以上の取得率82%)(北嶺中高等学校,2003) 10)。

以上の事から、こういった論文情報は必ずや英語学習者には言うに及ばず、指導者に対しても有益な情報になるものと確信する。その他、STEP Bulletin は近年一種の学術的な論文が数多く見受けられるものの、学校現場に即した実践的な研究により、上記のように現場の教員に有益な情報が提供できるものと考えことから、そのような掲載も数多くなされることが望まれる。

4. 保護者に対して有益性を訴える資料

3. で記した提言と事例は、教育者のみならず受験料を管理する保護者にとっても有益な内容、及び資料になる事と推察される。しかしながら、

教育者・保護者ともにそのまま論文を提示しても必ずしもすぐに必要となるべき箇所ばかりではないかとも推察されるので、必要かつすぐに取り入れられる部分のみを要約・編集し、グラフや表も共に提示して、簡潔かつ的を得たイラストなども含めた小冊子などで配布できるとその効果は更に増すものと思われる。英検受験者数の復活を望む際にはぜひともこの提案を早急に行うことを切望する。これまでに記してきた内容(TOEIC Bridge 他、各種英語資格試験に対する英検の有意性)も併せて要約・編集をした形で、英語検定試験をPRしていくとより一層の効力が増すものと思われる。

5. 中等教育現場の教員および保護者以外の対象者に対する意見・提言

試験を受ける際に、やはりその後のフィードバック(受験者への支援・サービス)は不可欠であろうと思われる。現在ではシール状になった形で「英検取得」を示す札が合格証書と共に添付されており、これは新たに取得証明書を発行してもらう上で大変有用な方法である。加えてインターネットによる応募は、現代のコンピュータ社会において大変簡潔で快適な手続き方法であると思われる。反面、合格証書そのものがあまりに機械的に印刷されており、それが5級であろうと準1級であろうと印刷面の色や内容が同一であるために、非常に無味乾燥で味気ない印象を受ける。やはり高い級を取得するにつれて合格証書の大きさを徐々に大きくするなり、もしくはせめて色合いだけでも変化させて重みのある賞状にするなりといった工夫が欲しい。

英検の模擬試験的位置付けにもなる「EVIDUS」主催のインターネット上での試験「CASEC」(Computerized Assessment System for English Communication)について、受験金額の高額さが学校現場では問題になっている。1回3,500円となっているが、「認定校」とされているそのほとんどがパソコン教室や学習塾関連であり(CASEC,2003) 11)、せっかく良いものであっても利潤追求のあまり高額商品になってしまつては、学校での団体受験や個人受験をする際にも二の足を踏んでしまい、結局はその効果が生

かされなくなってしまうという懸念もある。

また、団体でもらう賞についても選考基準を明確にすべきであろう。中学・高校段階で英検準2級、2級、準1級を取得するにはかなりの努力が必要である反面、受験者から割り出した合格者数のみで算出されているとすると、極論すればその学校から20名を受験させて、例えば学年の学習進度状況に見合わない低い級であっても(例:高校3年生で英検3級取得など)合格すれば「合格率」は100%と見なされて表彰を受けるといった、一見解せない状況も生まれている。(一例としては、ある地域における私立A高校は英検2級取得者を5人輩出し、「取得率が高かった」という事(5人受験で5人合格か)で「英検団体優良賞」を授与した。学校案内でその事を大いにPRし、生徒募集の宣伝として用いられた¹³⁾。しかしながら、団体受験者数が多い学校という事は、それだけ1度や2度落ちてもかまわないから自分の目指す級を果敢に受験するといった、挑戦心が旺盛である生徒が多いと考えることができる。そのような学校に対しても陽の目を浴びることができるような、公平な賞の扱い方を望みたい。とりわけこういった賞はやはり学校にとっても大変名誉な事であり、ひいてはそれが学校をより良くしていくための宣伝効果にもつながるといった、教育的かつ学校経営的效果を生み出す事にもなるからである。

2004年度から英検の1次試験筆記において、「英作文」の出題で1級と準1級に限り従来の記し方のテーマを絞った形式、及び語順並べ替えから、表5のような形式に変更になった。

表5 英検1級1次試験 新旧対照表
旧

FROM: Michael Goff (michaelgoff@step.test)
TO: Travelways (travel@travelways.agency)
DATE: June 15, 2003
SUBJECT: RE: Reservation
Dear Travelways:
1. 先週ホテルの予約を入れた者であるが、その件について問い合わせがある。予約番号は3457である。
2. 他の代理店では同じホテルの宿泊費を、1泊わずか150ドルで提供していることを知った。

3. 2泊分だと、100ドル近くも違ってくる。
4. 同様の価格にしてもらうことは可能か。
5. いつも御社のサービスには満足し、信頼もしているのですが、できればこのまま予約をお願いしたいと思っている。
6. 無理であれば、他社を手配するので、できるだけ早く知らせてほしい。
7. 明日は事務所にいないので、下に携帯電話の番号を書いておく。
Best regards,
Michael Goff

新

■Write an essay on the given TOPIC covering at least three of the POINTS below.

Use the space provided on your answer sheet.

■Structure: three or more paragraphs, including an introduction and conclusion

■Length: around 200 words

TOPIC

The Advantages and/or Disadvantages of Studying Abroad

POINTS

Homesickness • Career prospects • Independence • Language barrier

International understanding • Culture shock

(日本英語検定協会,2004)¹³⁾

これによって、英検のWriting能力を測る形式もよりG-TECに近くなり、一層オーセンティックで実践的な形に変わっていったといえることができる。英検自体の出題形式が、国立大学入試2次試験Writingの形式により近づいていった。ただし、現段階では1級、準1級に限られていることから、今後2級以下にもこのような事が続いていけば、中等教育現場、とりわけ後期中等現場にあたる高等学校においては、高校生の履修内容にふさわしいWriting力を測定することができることから、英検の採択状況はより改善され、ひいてはReading, ListeningとWritingの3技能までは測定していく事ができるものとみられる。

以上の事から、これまで様々な英語資格試験の中等教育現場における優位性、及び課題についての提言を行ってきた。課題に対するこれらの点が改善されていけば、とりわけ「英検」は他の資格

試験と比較して、その伝統と実績から、中等教育現場においてはますますその効果を発揮するものと思われる。

6. 総括：これまでの分析結果における課題と今後に対する提言

本章においては、最終的に総括として、今後の資格試験全般に対する課題と提言を列挙する。これにより読者諸氏、および英検協会においては、様々な活用をお願いしたい。

(1) TOEIC :

- ① 企業による「英語コミュニケーションの能力を図る」ことへの推奨による、受験者数（とりわけ高専・大学・企業）の増加
 - ② 「Speaking and Writing Tests（略称 SW テスト）」の 開発—4技能の充実
- 【課題】 中高生受験者総数の低迷

(2) TOEIC Bridge :

TOEIC よりも「易しくて」、「日常的で身近な」、「時間の短い」「初級学習者向けのテスト」としての位置づけの確立

— 大学・企業が求める資格試験の英語数値 = 「TOEIC スコア」による、高等学校の追随

【課題】

- ① 使用単語の制限なし
- ② 公立中学校現場での学習語彙数：1,200 語 — 語彙レベルの不適合
- ③ 測定範囲：「初級から中級レベル」という曖昧さ
- ④ 「センター試験英語」問題との内容の整合性の弱さ

(3) 工業英検 :

工業英語の重要性を広く普及・啓発し、その実力を当該試験を通じて客観的に正しく評価することを目的とする（工業高校生・高専生対象）

【課題】

- ① 中学生での学習領域をはるかに越える語彙が出題（4級でも）
- ② 文脈の背景にある「工業系の知識の内容が周知か」どうかで解答のできが左右される

- ③ 工業高校生の履修レベルを上回っている
 - ・高専での採用率も決して高くはない
 - 高専では「TOEIC」に傾倒

(4) 英検 :

- ① 学年履修レベルや語彙レベルが提示されており、受験生も準備しやすい。
- ② 「Can-do リスト」— 「英検合格者の実際の英語使用に対する自信の度合い」という副題による、「何かができるようになった人は、テストで何点取れる」という指標
- ③ 「4技能」を1次試験（Reading, Listening, Writing）と2次試験（Speaking）により測定
- ④ 「英検2級」と「センター試験（2002年度）」との出題形式の類似性による、「センター試験」事前準備用としての「2級」の活用可能
- ⑤ 「準2級取得者は約140点、2級取得者は約160点、センター試験英語科目」で取得可能

【課題】

- ① Skimming, Scanning を用いての情報収集という「現代的な内容読解」の欠如
- ② 真の「書く」能力(Writing Competence)測定の欠如
- ③ 「準1級」の社会的な位置づけ：「英検2級取得者」（=TOEIC450点取得者に相当か）の、次の学習指針としての「TOEIC 受験」の高まり

【提言】

- ① 本論文、および「英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究（日本英語検定協会,2000）」の、中学・高等学校現場への情報普及・宣伝拡大
 - 「センター試験英語」得点獲得のための足掛かりをしていくべき
- ② 全国の大学、短期大学、高等専門学校、高等学校での「合格優遇」の普及・拡大をしていくべき
- ③ 英検の1次試験における「TOEIC 的なビジュアル方式長文読解」の導入をすべき
 - 「センター試験英語」は既に導入済み：「国際コミュニケーション能力の伸長度測定」

- ④「中等教育現場の教員が必要としている資料」の提供をすべき
 —『英検』を取得しても、それがセンター試験の点数とどのようにつながるのであるか」という疑問に対する情報提供をすべき

④に対する【対策】

<1> 全国普及宣伝活動実施

- 「実践的な研究」の積極的採用促進と、現場の教員が冊子に目を通すような工夫をすべき

<2> 「合格証書」の「見栄え」による工夫

- 画一化の廃止と、「高い級取得」＝「合格(証書)の重み」としての工夫：色合い・賞状の大きさの変化など

<3> 団体賞などの選考基準の明確化

- 「受験者数・合格者数・合格率」その他

- ⑤ 保護者に対して有益性を訴える資料の提供をすべき

- 必要かつすぐに取り入れられる部分のみを要約・編集し、グラフや表も提示しながらの、簡潔かつ的を得た イラストなども含めた小冊子などの配布・宣伝活動

以上に関して、課題と提言、および対策を述べるものとする。

参考文献

- 1) 山西敏博 (2012) 『中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が効果的か その1』 小山工業高等専門学校 研究紀要第45号 pp.45-54 栃木県：小山工業高等専門学校
- 2) 山西敏博 (2013) 『中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が効果的か その2』 小山工業高等専門学校 研究紀要第46号 pp.39-48 栃木県：小山工業高等専門学校
- 3) (財) 日本英語検定協会 (2003) 英検は今後も実施され、その価値も変わりません—「認定制度廃止」について 英検ガイド2003 p.20 東京：(財) 日本英語検定協会
- 4) (財) 日本英語検定協会 (2011) 英検受験者数推移 2000-2010 級別 東京：(財) 日本英語検定協会
- 5) (財) 日本英語検定協会 (2011) 英検受験者数推移 2000-2010 総計 東京：(財) 日本英語検定協会
- 6) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) TOEIC 受験者数推移 2000-2010 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会
- 7) 山西敏博 (2000) 「英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究」 STEP Bulletin Vol.12 東京：日本英語検定協会
- 8) (財) 日本英語検定協会 (2011) 『英検資格取得者優遇校』 日本英語検定協会 HP <https://uketuke.eiken.or.jp/loginservice/jsp/L1F002.action;jsessionid=93F8E7F4C197676C5E041EAA0A60CCE4>
- 9) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) 入学試験・単位認定における活用状況 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会
- 10) 北嶺中高等学校 (2003) 英語検定試験取得者数一覧 平成15年3月現在 2004 HOKUREI INFORMATION 北嶺—めざすなら高い嶺, p.17 北海道：北嶺中高等学校
- 11) CASEC (2003) 英語コミュニケーション能力判定テスト <http://casec.evidus.com/school/index.html>
- 12) A高校 (2002) 学校案内
- 13) (財) 日本英語検定協会 (2004) 1次試験英作文 1次・2次試験改定のポイント p.4 東京：(財) 日本英語検定協会

【受理年月日 2014年 6月16日】